



SYLLABUS

Singing

2018～

声楽
受検要項
(参考抄訳)

2018 受検要項：声楽（抜粋）

ABRSM シラバス(要項)について

ABRSM は長い間、音楽への情熱を基に指導者や学習者を全力でサポートして参りました。その中の一つがグレード検定です。ここにおいては厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽における達成感を得る為に、さまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

グレード検定は楽器だけではなく、声楽、ジャズ、音楽理論そしてプラクティカル・ミュージシャンシップなど、多岐に渡って行われます。シラバスは基本的な音楽スキル 一聴く力、演奏力、読む力、書く力、そして音楽の知識と理解力をベースとしています。これらのスキルと共に学習者は音楽力を伸ばし、さまざまな音楽分野での能力を発展させることができます。

検定は学習者にわくわくする体験と多大な恩恵をもたらします。まず学習者はモチベーションを持ち、素晴らしい音楽の発見と共に新しい技術を身につけることができます。更に検定で音楽の目標に達することによって、達成感が得られるのです。

ABRSM は、学習者にとってこの検定を受けることが前向きで実りの多い経験となるよう最善をつくします。ここではスペシャリスト、音楽指導者、検定員の協力のもと、幅広い課題曲が選択されており、高度に訓練された検定員は親しみのある態度で受検者に接し、彼らが検定において最大の力を発揮できるよう努めます。また、検定員は明快で分かり易い規準に基づいて、信頼できる客観的且つ一貫性のある評価を行います。最後に受検者は価値のあるフィードバックとなる採点用紙を受け取り、全ての合格者には、合格証書が渡されます。

私どもは、このシラバスが学習者、指導者の音楽力、指導力を高める上に励みとなり、役に立つものとなるよう願っております。

皆様の「音楽の旅」が実りのあるものとなりますように！

詳しくは下記の HP をご覧ください。

www.abrsm.org

2018 年以降の新シラバス

この要項は 2018 年 1 月から、次に改訂されるまで有効です。
すべてのグレードにおいて、課題曲は改定されています。(以前の要項からの曲の抜粋も若干みられます)。

グレード 6 – 8 においては次の改訂が行われています。

- レポートリーリストが 4 から 5 に増えました。
- この 5 つのリストから受検者は 3 曲を選びます。
- 全ての曲は 30 点満点です。
- 2 つの言語での曲、または自国語での曲は必須事項から除外されました。
- 全ての曲は、声域、調性を選びません。

無伴奏曲、初見視唱、オーラルテストについての変更はありません。

細かい変更については、随時下記のサイトに掲示されます。

www.abrsm.org/syllabuscorrections

移行期間として英国以外の国においては、**2018 年の 12 月まで前年度の要項に基づく課題曲での受検が認められています。ただし、2 つの年度の課題曲を混在して選曲することはできません。**

プレップ テスト

リラックスした雰囲気の中で受検者を元気づけるプレップテストは、グレードテストの前の力だめしの良い機会です。ここでは、次へのゴールが見えるばかりでなく、なんと合格証書ももらえるのです。

プレップテストでは音楽を始めてから6~9ヶ月の学習者の評価が行われ、音楽力、技術力の基礎を積み上げていけるように工夫されています。

内容

プレップテストには次の4つの分野があります:練習曲、課題曲、自由曲、聴き取りゲーム

・練習曲 (Tunes)

短い3曲を、暗譜で演奏 (いずれもプレップテスト課題曲集より)

- a) Far Blue Sea
- b) Snakes and Ladders
- c) The Tip of the Tongue!

・1曲目 以下から1曲を選ぶ (いずれもプレップテスト課題曲集より)

Ride on a Rainbow
The Haunted House of the Hill
Lazy Sunday Afternoon
The Smuggler Men

・2曲目 (ソロ又はデュエット)

受検者の選択で自由にソロ曲を1曲 (長さ: 16~24小節)

・聴き取りゲーム: 問題例はプレップテスト課題曲集に書いてあります。

- a) 拍うち
- b) まねっこエコー
- c) 音あて
- d) なにがきけたかな?

これらの曲集は、ABRSM から出版され、オンラインや代表事務局から購入できます。

評価について

検定が終わると直ちに、はげましのコメントが書かれた証書が検定員から手渡されます。ここでは点数や、合否の判定はありません。検定員は以下の内容についてコメントします。

- ・音の高さ
- ・リズム感
- ・音色のコントロール
- ・聴き取りの力

その他

- ・プレップテストは約 10 分です。(通訳がいる場合はプラス 3 分)
- ・練習曲および 2 曲は暗譜が必要です。
- ・伴奏者をつれてくることは可能ですが、検定員も伴奏をいたします。(指定の調で)
- ・通常、1 名の検定員によって検定が行われますが、まれに更に 1 名が同席する場合があります。
- ・日程や会場、検定料、お申し込み方法など詳しいことは www.abrsm.org/exambooking 又は日本代表事務局にお問い合わせください。

グレード検定

試験の配点 (Elements of the exam)

伴奏付課題曲	1	30 点
	2	30 点
	3	30 点
無伴奏曲		21 点
初見視唱		21 点
オーラルテスト		18 点
総合点		150 点

評点規準：150 点のうち、合格には 100 点（全体の 66%）が必要です。120 点以上で優（メリット）、130 点以上で秀（ディステインクション）の評価が与えられます。又、各項目において必ずしも 66%を獲得しなければならないというわけではありません。

伴奏付きの曲(Accompanied Songs)

課題曲の選択 (Programme planning)

グレード 1-5 において、受検者は A,B,C の各リストから 1 曲ずつ計 3 曲、さらに自由選択にて無伴奏曲を 1 曲選び、歌います。

グレード 6-8 では、A,B,C,D,E のリストから 1 曲ずつ計 3 曲、および無伴奏曲 1 曲となります。

課題曲は、受検者の声質を考慮し、様式や曲想における対比があり、バランスのとれた構成となるように配慮してください。

歌詞について (Languages)

全てのグレードにおいて、オリジナル言語での歌詞あるいは、出版されている言語訳にて歌います。要項には各リストの中で曲の言語が、詳しく示されています。

調性について (Keys)

要項には全ての曲について（調性が複数にわたる場合は声域のみ指定）出版されている楽譜の調と声域が詳しく書かれています。一曲に複数の楽譜が出版されている場合は全ての出版における調性が音の高い順に示されています。声域に関しては、最初に書かれている楽譜にのみ、記されています。

声域はヘルムホルツ方式に基づいています。(英文9ページの譜例参照のこと)

c" (-b")	1 オクターブ上の C (B まで)
c' (-b')	中央 C (B まで)
c (-b)	1 オクターブ下の C (B まで)
C (-B)	2 オクターブ下の C (B まで)

すべての曲は出版されている楽譜通りでも移調されたものでも可、受検者の声域にあった調性で歌います。

課題曲の楽譜 (Editions)

受検者は要項の中のどの版を使用してもかまいません。ただし、編曲者の名前が太字で書かれている特別な編曲版を除きます。

要項に掲載されている出版社名は、現在出版されている楽譜の一例として参考にして頂ければ結構です。調性、音域、翻訳などについても同様です。

(F),(M)のマークがある歌曲にはそれぞれ女声、男声用の歌詞が含まれていますが、必ずしも厳密に従う必要はなく、適宜変更して演奏することも可能です。

ヴァースと繰り返し (Verses and repeats)

要項に特記されている場合を除き、受検者は全曲を通して歌わなければなりません。但し、完全な繰り返し(音楽や歌詞に全く変化が見られず、繰り返しが音楽的に意味を持たない場合など)は省略も可能です。

ヴァース/コーラスから成る歌曲の場合、コーラス部分は必ず演奏します。ダ・カーポやダル・セーニョも指示がない限り繰り返します。

暗譜について (Singing from memory)

オラトリオ、カンタータなどスケールの大きい宗教曲はスコアを見て歌っても良いことになっていますが、それ以外のグレードの曲は、すべて暗譜にて歌われなければなりません。

伴奏者について (Accompaniment)

リスト A~E の曲は、すべて伴奏者を必要とします。伴奏者は伴奏する時のみ検定室に入室することができます。指導講師による伴奏は許されますが、受検者自身が自ら伴奏をすることはできません。又、初見視唱の場合をのぞいて、検定員はいかなる場合でも伴奏はしません。

グレード6-8の伴奏者は譜めくり者を同伴することが出来ます。

無伴奏曲(Unaccompanied Traditional Songs)

全てのグレードにおいて、受検者は無伴奏での民謡、伝承歌曲(=地方で歌い継がれ、その地方の文化を形作ってきたもの)を、暗譜にて歌うことになっています。讃美歌や国歌、特別に編曲された民謡などはこれに該当しません。

民謡はどの国の言語で歌ってもかまいませんが、英語以外の場合は抄訳を検定員のために用意するのが望ましいでしょう。受検者は自身が歌いやすい調性を選ぶことができ、歌い始めの音はピアノ等で確認できます。

演奏はシンプルで豊かな表現をもち、音程やリズムが正確で音楽性が感じられるようなものが望ましいでしょう。又、強弱やテンポはその曲の様式や雰囲気にもふさわしいものを選び、さらに曲の物語性をしっかり伝えるためには、明瞭な歌詞が大切です。

演奏時間は下記の通りです。

	最短	最長
グレード 1-4	1分	2分
グレード 5-8	1分	3分

使用可能な曲集について (Possible sources)

民謡に使用する曲集などは指定がありませんので、受検者はグレードに関係なく、曲を選ぶことができます。参考になる曲集名はシラバスに記載されていますが、日本代表事務局では取り扱っておりません。予めご了承ください。

初見視唱(Sight-Singing)

役に立つ情報 (Useful information)

初見視唱の伴奏は検定員が行います。

歌詞のないグレード 1-5 の初見において、受検者は母音、又はドレミで歌います。グレード 6-8 において、楽譜に書いてある明快で簡潔な英語の歌詞で歌う、或いは母音、ドレミでの視唱も可能です。

受検者はト音、或はヘ音記号の音域を選択できます。

準備のために、グレード 1-5、6-8 の練習問題集が二分冊にて ABRSM 出版から出ています。

初見の前に (Preparation)

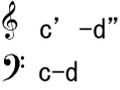
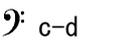
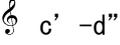
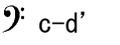
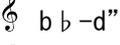
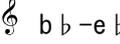
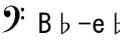
受検者は約 30 秒の予見時間が与えられ、その間、試唱をしても良いことになっています。検定員は主和音と開始音を与えます。

伴奏について (Accompaniments)

初見視唱には序奏がありませんので、受検者が自らテンポを指定し、歌い始めます。伴奏者(=検定員)は、グレード 1,2 に於いては和音の最高音をメロディの音にかぶせ、時折和音奏をします。グレードが上がるにつれて、伴奏の割合は増えていきます。

各グレードにおける音楽要素 (Parameters)

グレードが進むにつれて、息継ぎの為の休符を含み、徐々に音価が増えていきます。(グレード 1 では 4 分音符、2 分音符、それに 2 つの 8 分音符のつながったものからスタートします)。英語とイタリア語(理論試験レベルの範囲)での表記がみられ、又、強弱記号は旋律の上部に示されます。なお、表に出てくる各要素はそのグレードにおける新出事項を示しています。

グレード	小節数	調性	拍子	音域	旋律内の音程	歌詞
1	4	ハ、ト、ヘ長調	4/4	約 6 度  	長短 2 度のみ 段階的、順次進行のみ 同音連打なし	無し
2		ニ長調	3/4		主和音内での長短 3 度 上行	
3	8	変ロ長調		1 オクターブ  	長短 3 度の上下行 完全 4 度 同音連打	
4		イ、変ホ長調 ホ、ニ短調		 	完全 4 度の上行 オクターブの上下行	
5		ホ長調 ロ、ト短調			完全 5 度 完全 4 度の下行	
6	8-10	変イ長調 ハ短調	6/8	 	長、短 6 度 まれに半音	英語 (オプション)
7		嬰ヘ短調			短 7 度 まれに半音階的半音	
8	8-12	嬰ハ、ヘ短調			減 7 度	

検定では(In the Exam)

曲目リスト (Song list)

受検者は演奏予定の曲目番号(例、リストAの16番目の曲であれば、「A16」)を含む曲目リストを提出しなければなりません。リスト用紙は要項の最後のページにあります。

演奏と評価 (Performance and assessment)

受検者は検定員が評価を書いている間も、聴衆に向かって音楽をするという態度を保たなければなりません。一方検定員は評価を書いている間も、音符やリズムの正確さのみならず、演奏に必要な音楽的な要素について常に注意を払っています。その要素とは、バランスの良い姿勢、呼吸のコントロール、音程の確かさ、声質の幅、アーティキュレーション、発声の仕方、柔軟性、機敏性、速度設定の的確さ、フレージング、様式の理解、表現の豊かさ、更に、暗譜の確かさなどです。

MEMO

オーラル・テスト：全ての実技検定で実施されます

「聴くこと」は、良い音楽を創る基礎であります。「音楽的な耳をもつ」ことは、音楽力の決定的な要素であり、音楽の訓練の基礎となるものです。声に出しても、出さなくても「うたうこと」は、「音楽的な耳」を育むのに最良の方法です。楽器で音を探すのではなく（それ自体は意味のあることですが）、「内なる耳」で、聴くことにより、音のイメージを創り、音として表すことができます。レッスンの中で、このようなイメージトレーニングをすることにより、オーラル・テストの準備は自然と行われ、検定へと結びつくのです。

検定では

オーラル・テストは、実技検定の一部です。

オーラル・テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも、音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

評価

いくつかのテストでは、必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は、検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは、評価に影響を与える場合もあります。

実際どのようにオーラル・テストが行われるかについては、*These Music Exams* を参照のこと。

聴音例題集

オーラル・テストの実例は、「聴音例題集」及び、「聴音指導書」を参考にしてください。これらは、日本代表事務局、或いはローランド音楽教室各センタースクールで購入できます。

聴覚に障害のある受検者

聴覚障害を持つ受検者は、通常のオーラル・テストの代わりに特別の試験を受けることができます。受検申し込みの際に、お申し出ください。

2011年以降の部分的変更

2011年以降のオーラル・テストの部分的変更については、下記の URL でご確認ください。
www.abrsm.org/aural 又、変更された要素と問題例については、「聴音例題集」「聴音指導書」(改訂版)に、詳しく書かれています。以下に述べられている各グレードのオーラル・テストの説明も、ご熟読ください。

オーラル・テスト：グレード1

- A** 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B** 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調の2小節のフレーズが2回弾かれます。2回目にメロディが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分かを答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合があります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（p/f、強さの変化）②アーティキュレーション（スタッカート／レガート）についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード2

- A** 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B** 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、リズム或いはメロディーの違いを答えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合があります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション（スタッカート／レガート）、②テンポの変化（速くなった／遅くなった／変わらない）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード3

- A** 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子**を答えてください。
- B** 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション(スタッカート／レガート)、テンポの変化(速くなった／遅くなった／変わらない)②調性(長調／短調)に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード4

- A** 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを**覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** 指定されたスコアを見て、**5つの音を歌うこと**。出題は、ハ(C)、へ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。
- C1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C2** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、その**リズムを打つこと**。次にその曲が**2,3,4のいずれの拍子であるか**を答えてください。

オーラル・テスト：グレード5

- A** 短い旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** 指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと。出題は、シャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。
- C1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C2** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード6

- A** 二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット3つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音を与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください

オーラル・テスト：グレード7

- A** 二声のフレーズが2回弾かれますので、**下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。
フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** スコアを見て、下声部の**伴奏にあわせて旋律を歌うこと**。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** フレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、完全終止(perfect)半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。
- C2** 上記C1の終止形における**2つの和音を答えること**。範囲はトニック(主和音-I)、サブドミナント(下屬和音-IV)、ドミナント(属和音-V)、ドミナント7th(属七の和音-V7)、およびサブミディアント(下中和音-VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、2つの和音が続けて弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- C3** 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、**転調を答えてください**。出題は属調、下屬調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、**そのリズムを打つこと**。次にその曲が**2,3,4 或いは6/8のいずれの拍子であるかを答えてください**。

オーラル・テスト：グレード8

- A1** 三声のフレーズが2回弾かれますので、**最下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）**こと。
フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- A2** 長調又は短調のフレーズが2回弾かれますので、**終止形を答えてください**。出題は、**完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)**に限られます。終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音-I)の基本形、第1,2転回形、スーパートニック(上主和音-II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音-IV)の基本形、ドミナント(属和音-V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音-V7)の基本形、及びサブミディアン(下中和音-VI)の基本形です。初めに主和音が与えられます
- A3** 上記の終止形における**3つの和音と転回形を答えてください**。出題は、トニック(主和音-I)の基本形、第1,2転回形、スーパートニック(上主和音-II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音-IV)の基本形、ドミナント(属和音-V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音-V7)の基本形、及びサブミディアン(下中和音-VI)の基本形です。初めに主和音が与えられ、次に3つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- B** スコアを見て、**伴奏にあわせて下声部の旋律を歌う**こと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** **2つの短いパッセージが、各々一回ずつ弾かれますので、転調を答えてください**。一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は**属調、下屬調、平行調**への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D** 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについて**ディスカッション**します。必要に応じて、検定員がヒントを与える場合もあります。

曲目リスト記入例

